

新品種の紹介

自給飼料生産とネコブセンチュウ対策に有効な夏播き用エンバク品種「A19」

【開発の背景】

エンバク品種「たちいぶき」がサツマイモネコブセンチュウの増殖を抑制する作用を持つことが明らかにされ(九州沖縄農研ニュース No.29)、「たちいぶき」は線虫対策と自給飼料生産に同時に対応できる飼料作物品種として、新たな耕畜連携の有効な技術の一つとして考えられました。

しかし、「たちいぶき」は9月下旬の播種では年内に出穂せず、低収になります。そこで、サツマイモネコブセンチュウの増殖を抑制し、9月下旬の播種でも多収となる「A19」を雪印種苗株式会社との共同研究で育成しました。

【品種の特徴】

「A19」は、「たちいぶき」を母、夏播き栽培で多収の「スーパーハヤテ隼」を父として育成した品種です。既存品種の中でも出穂が最も早いグループに属し、九州地域では9月中旬に播種すれば、年内に出穂し、多収となります(表1)。また、既存品種より倒伏に強

く、粗蛋白質含量や TDN 含量は同じ頃に出穂する「九州15号」より高くなります(表1、写真1)。「サツマイモネコブセンチュウ」に対する増殖抑制効果は、「たちいぶき」と同程度です(図1)。

【期待する活用場面】

「A19」は、夏播き栽培での安定した出穂や優れた耐倒伏性から、自給飼料の安定生産に役立つと期待しています。また、9月中旬に播種できれば、サツマイモネコブセンチュウの増殖を抑制するので、サツマイモネコブセンチュウ対策と飼料生産の兼用品種として、サツマイモ早掘り栽培後などで耕畜連携による自給飼料の生産にも役立つ品種になることを期待しています。

なお、「A19」の種子は共同研究を行った雪印種苗株式会社から入手できます。現在、種苗登録を申請していますが、正式に登録されるまでは「A19」の名称で販売されています。

【畜産草地研究領域 桂 真昭】

表1 夏播き栽培における「A19」の特性

	出穂まで 日数 (日)	乾物収量 ¹⁾ (kg/a)	乾物率 (%)	草丈 (cm)	倒伏程度 ²⁾	葉枯病 罹病程度 ²⁾	冠さび病 罹病程度 ²⁾	粗蛋白質 含有率 (%)	推定 TDN 含量 ³⁾ (%)
1) 9月前半播き ⁴⁾									
A19	47	73.0(96)	18.9	122	2.4	2.2	1.2	14.0	59.7
たちいぶき(標準)	65	76.1(100)	16.1	120	3.8	2.0	1.1	17.0	60.8
スーパーハヤテ隼(比較)	53	78.6(103)	15.2	130	4.6	1.5	1.3	14.5	62.3
九州15号(参考)	46	74.0(97)	19.5	112	3.1	1.9	1.5	12.9	56.7
2) 9月後半播き ⁵⁾									
A19	53	65.1(110)	16.3	112	2.6	1.5	1.0	15.5	58.0
たちいぶき(標準)	82	59.2(100)	14.2	101	3.5	2.1	1.0	18.0	64.7
スーパーハヤテ隼(比較)	62	59.6(101)	14.3	114	3.3	3.0	1.2	16.3	62.5
九州15号(参考)	51	64.6(109)	16.0	109	3.2	1.3	1.0	12.8	56.9

注 1) 括弧内は標準比。

2) 1: 無 - 9: 甚。

3) 出口ら(1997)の推定式($TDN = -5.45 + 0.89 \times (OCC + Oa) + 0.45 \times OCW$)で算出。

4) 2009 ~ 2010 年の宮崎、熊本、千葉における、3場所、延べ6試験の平均。

5) 2009 ~ 2010 年の宮崎、熊本、千葉における、3場所、延べ5試験の平均。



写真1 倒伏に強い「A19」(左側の手前)
(2011年11月21日撮影、熊本県合志市)

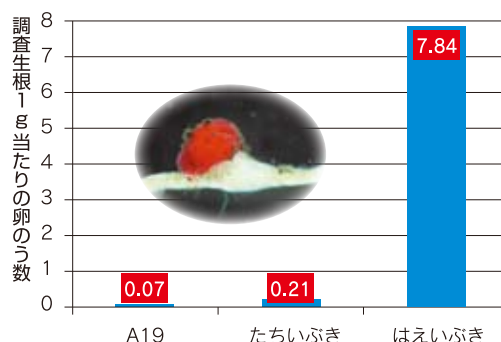


図1 エンバク夏播き栽培終了時におけるネコブセンチュウの卵のう形成数
(グラフ内の写真は、ネコブセンチュウの卵のう。数値は各品種の値。)